

【京丹波町】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」の内容等には、子供たちの資質・能力を育成することが求められています。

「個別最適な学び」の実現のため、一人ひとりの児童生徒の実態に応じた学習計画に基づき、児童生徒が1人1台端末を通じて、場所や個人の資質、環境にとらわれず、個々の理解度や学習ペースに合わせた学びを目指します。

「協働的な学び」の実現のため、1人1台端末を通じて他の児童生徒や地域住民と交流することにより、児童生徒が他者の多様な考えに触れ、自己の考えを広げ高める学びを目指します。

また、京丹波町では、第2期京丹波町教育振興基本計画の「学校・家庭・地域総がかりで育む子育てからひとづくりへ」を基本理念に、「京丹波町のよさを生かした京丹波町ならではの教育」を推進していきます。

この目標の実現に向けて、学校や児童生徒の実情を踏まえた上で、ICTを活用した新たな教材やアプリ、学習活動を積極的に導入し、児童生徒の資質・能力の育成を推進していきます。

2. GIGA第1期の総括

京丹波町では、令和2年度に児童生徒及び教職員に1人1台端末（タブレット＋セルラーモデル）を858台配備するとともに、セルラー通信を契約しました。これにより、児童生徒及び教職員は、1人1台端末を活用して校内及び校外でインターネットに接続できる「いつでも、どこでも、つながる」環境の構築を実現しました。

加えて、1人1台端末の導入に合わせて、各小中学校に大型液晶ディスプレイを配備しました。これにより、児童生徒が資料を投影しながら自分の考えを説明できる環境が整いました。

また、令和3年4月からはICT支援員を各校月2回程度配置し、教職員や児童生徒の学習活動のサポートを行っています。「教育ICT推進会議」を毎月1回開催し、各校の課題や良い活用事例の共有などを行っています。

一方で、タブレット端末の性能による容量不足やネットワークトラブルも見受けられたほか、学校や教職員による1人1台端末の活用頻度には差があるため、教職員の意識やICT活用指導力の更なる向上が課題となっています。また、子供たちの端末の利活用においては、デジタルリテラシーの差や、家庭環境による影響が見られ、これが学習の機会均等に影響を及ぼす可能性があります。さらに、特別な支援を要する児童生徒に

対しては、個別のニーズに応じた支援が不足していることが課題となっており、これらの児童生徒が効果的にＩＣＴを活用できるような環境整備が求められています。

3. 1人1台端末の利活用方策

本町では、個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実を図るため、以下の取り組みを通じて実現を目指します。

(1) ＩＣＴ教育環境の充実

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図り、教育の質を向上させるため、1人1台端末を用いたデジタル教科書等の効果的な活用の促進を図るとともに、機器の容量不足やネットワークトラブルを解決するための対策を講じます。また、機器の更新については、端末整備・更新計画のとおり更新を行い、1人1台端末環境を引き続き維持していきます。

(2) 教職員研修の一層の充実

ＩＣＴ活用スキルや受講者のニーズに合わせ、集合、双方向オンライン、動画配信等を組み合わせた教職員研修の一層の充実を図り、学び続ける教職員の育成を目指します。

(3) 授業実践事例や先進事例の収集及び展開

子どもたちが1人1台端末を文房具として活用しながら、個別最適・協働的な学びを行っている実践事例やリーディングＤＸ指定校の活用事例、生成ＡＩの活用等、先進的な取組事例を収集し、各校に展開します。

(4) 児童生徒の一人一人の学びの保障

日常の授業で1人1台端末をより効果的に活用することはもちろんのこと、特別な支援を要する児童生徒の実態に合わせて、1人1台端末の活用を進め様々な状況におかれた児童生徒の学習機会を確保していく必要がある。1人1台端末を利用したりモート授業の実施や通訳アプリ、音声教材等の活用により、個々に寄り添ったきめ細かな支援ができるように努めます。